

授業科目名： 発達心理学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 美穂 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【本授業のテーマ】</p> <p>子どもが発達するとはどういうことだろうか。「発達」を定義するときは、「学習」と区別するために、単に特定の（知的）作業がなんらかの限定された経験（学習経験）によって「できるようになる」ことを指しているのではないことが強調される。要するに、「発達」とは、ある年齢に達すると、一連の知的作業が、とりたてて「学習する」とか「教示される」ことがないのに、おのずから「できるようになっている」ような事態を指すのである。どうして、ある年齢に達すると、一連の知的作業が「できるようになっている」のかについては、いくつかの異なる発達理論のもとで様々な説明がなされている。本授業では、これまでの発達理論の有効性と限界、及び今後の展開可能性について議論する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 近年の発達理論の展開、そこに見られる発達観の変化を読み取る</li> <li>2 発達の問題そのものの捉え方や解決策の探索の方向にも多様な観点が成り立つことを理解する。</li> <li>3 受講者自身の研究関心に対して、どのようなアプローチを採用して何を問題とすべきなのかについて、複数の観点から検討する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>これまで主流であった、また近年注目されつつある発達理論が、子どもを発達の姿をどのようにとらえ、発達の源泉を何に求め、そこでの発達観が「教育」全体（「教えること」・「学ぶこと」・「育つこと」の全体）にどのようなパースペクティブをもちうるのか、示しうるのかについて議論する。さらに、その議論を通して、複数の発達理論の観点から探索的に受講者自身の関心にアプローチして、研究の「問い」を立てる。</p>			
授業計画			
<p>前半は、主要な発達理論の系譜を追い、理論の内容とそこに読み取れる問題意識を整理し、後半は受講者が自身の課題に対してどのような方法を採用して何を問題とすべきなのかについて考える。</p> <p>第1回： ガイダンス 子どもが発達するということ－発達理論の系譜</p> <p>第2回： 精神分析学</p> <p>第3回： 現象学</p> <p>第4回： 神経心理学</p>			

第5回： 学習理論、経験主義論

第6回： 個人的構成主義論

第7回： 社会的構成主義論

第8回： 状況論、関係論

第9回： 乳児期の発達に関連した論文の講読・発表

第10回： 幼児期の発達に関連した論文の講読・発表

第11回： 児童期の発達に関連した論文の講読・発表

第12回： 思春期の発達に関連した論文の講読・発表

第13回： 青年期の発達に関連した論文の講読・発表

第14回： 成年期以降の発達に関連した論文の講読・発表

第15回： 研究構想発表

定期試験は行わない。

テキスト 使用しない。

参考書・参考資料等

浜田寿美男・岩田純一・無籐隆・松沢哲郎（編）『発達論の現在（別冊発達（10）』ミネルヴァ書房、1990年

バーバラ・ロゴフ（著）眞賀千賀子（訳）『文化的営みとしての発達—個人、世代、コミュニティ』新曜社、2006年

自己調整学習研究会 『自己調整学習—理論と実践の新たな展開へ—』北大路書房、2012年

村井潤一（編）『発達論の理論をきかずく（別冊発達（4）』ミネルヴァ書房、1986年

佐伯胖（編）『共感—育ち合う保育のなかで—』ミネルヴァ書房、2007年

佐伯胖（監）・渡部 信一（編）『「学び」の認知科学事典』大修館書店、2010年

Tomasello, M. (1999). The cultural origins of human communication. Cambridge, MA: Harvard University Press. 大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多啓（訳）『心とことばの起源を探る—文化と認知』勁草書房、2006年

Vasudevi, R. (2008). How infants know minds. MA: Harvard University Press. 佐伯胖（訳）『驚くべき乳幼児の心の世界—「二人称アプローチから見えてくること—』ミネルヴァ書房、2015年

学生に対する評価

①担当する理論及び論文に関する報告：研究論文の理解度、報告の明瞭さ・伝える工夫、レジュメのわかりやすさ、②毎回の討議内容：授業への貢献度（発言とその内容、聞く姿勢）、③期末レポート：到達目標3項目のそれぞれの達成が明確に表現されているか、により評価する。

①：②：③のウエイトは、50：25：25とする。

授業科目名： 発達心理学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 美穂 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
【授業のテーマ】			
近い将来の教職実践を見据えて、人間の発達に関連する関心の中から、追求すべき「問い」を立て、必要な資料や文献を収集・分析・活用しながら、「問い」に迫るための基本的な技能を習得する。			
【到達目標】			
1. 自らの問題意識に関連する先行研究をレビューする。			
2. 先行研究の意義と残された課題を明らかにする。			
3. 自らの研究課題を設定する。			
4. データの収集及び分析の方法を検討する。			
授業の概要			
発達研究の方法論を身につけるための基礎として、主として発達心理学、教育心理学、保育学領域の研究論文を読んで理解するためのトレーニングを行う。論文を読むことを通して、論理の構造、実証的な方法論、様々なデータの種類の種類、研究計画の方法、分析方法等について学ぶ。			
授業計画			
前半は、発達に関連する問題をテーマとしながら、研究手法の異なる7つの研究論文を講読し、問いの立て方・データ収集法・結果の導き方などについて考察する。後半は、各自の関心のある研究、関心のあるアプローチを取っている研究を他の受講者に紹介して、ゼミ形式で議論する。			
第1回： ガイダンス 子どもを「人間としてみる」ということ			
第2回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅰ（実験）			
第3回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅱ（質問紙調査）			
第4回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅲ（エスノグラフィー）			
第5回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅳ（インタビュー）			
第6回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅴ（教育実践）			
第7回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅵ（社会統計データ）			
第8回： 発達心理学的研究論文の講読Ⅶ（評論）			
第9回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅰ			
第10回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅱ（発達心理学研究）			

第11回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅲ（保育学研究）  
 第12回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅳ（質的心理学研究）  
 第13回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅴ（教育心理学研究）  
 第14回： 各自のテーマに関連した論文の講読・発表Ⅵ（教育学研究）  
 第15回： 研究構想発表  
 定期試験は行わない。

テキスト  
 使用しない。

参考書・参考資料等

刑部育子「『ちょっと気になる子ども』の集団への参加過程に関する関係論的分析」発達心理学研究、第9巻第1号、1-11頁、1998年

荻谷剛彦・志水宏吉 編『学力の社会学』岩波書店、2004年

木村泰子『「みんなの学校」が教えてくれたこと：学び合いと育ち合いを見届けた3290日』小学館、2015年

岡本依子「母親と子どものやりとり」、やまだようこ他編『カタログ 現場心理学—表現の冒険』金子書房、12-19頁、2001年

Onishi, K.H., & Baillargeon, R. 2005 Do 15-month-old infants understand false beliefs? Science, 308, 255-258.

氏家達夫・高濱裕子 「3人の母親：その適応過程についての追跡的研究」発達心理学研究、第5巻第2号、123-136頁、1994年

結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか—集団教育のエスノグラフィー』有信堂、1998年

学生に対する評価

報告の内容（文献を正確に理解し、報告できたか）：40%、討論への参加状況（授業に貢献する意見や質問、聞く姿勢）：20%、研究計画：40%によって評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：萩原拓、片桐正敏、蔦森英史 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業では、①特別の支援を必要とする幼児、児童、及び生徒の障害の特性、心身の発達、②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法、および、③診断はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応の3点について理解し、以下の知識・技能を獲得することを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的配慮やインクルーシブ教育をはじめとする特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。</li> <li>・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付け、教育場面での臨床像例を挙げることができる。</li> <li>・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</li> <li>・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。</li> <li>・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</li> <li>・特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、その方法例について知識を獲得している。</li> <li>・日本語以外の母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教員として、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等、または診断に至らない困難さにより、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくための教育を実践することができるように、学習上及び生活上の困難を特定、理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学ぶ。</p> <p>障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習上の困難とその対応については、第10回で虐待や貧困、性別違和の特性と対応を扱うほか、その子どもが持つ社会性や感覚特性の理解が支援の際に重要であり、環境調整が具体的な支援の鍵になることから、12回以降で扱うものとする。</p>			

## 授業計画

第1回：特別支援教育の導入の意味、「障害」概念の旧来の捉え方、「障害」概念の新しい捉え方

(担当：蔦森)

第2回：特別支援教育の歴史 (担当：蔦森)

第3回：障害の有無に関わらない特別の支援を要する幼児、児童、生徒と各学校園が抱える諸問題

(担当：蔦森)

第4回：個別の指導計画、教育支援計画 (担当：蔦森)

第5回：障害者権利条約批准とインクルーシブ教育 (担当：蔦森)

第6回：発達障害の定義と心理、発達特性 (担当：片桐)

第7回：学習障害 (限局性学習症) の心理、学習の過程と指導法 (担当：片桐)

第8回：注意欠如多動性障害 (ADHD) の心理、行動的な特徴と指導法 (担当：片桐)

第9回：自閉症スペクトラム障害 (ASD) の心理、行動的な特徴と指導法 (担当：片桐)

第10回：知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害の特性と対応、および障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒—虐待や貧困、性別違和の特性と対応 (担当：片桐)

第11回：校内支援及び関係機関との連携における現状と課題 (担当：萩原)

第12回：環境調整、学習支援 (担当：萩原)

第13回：問題行動への支援 (担当：萩原)

第14回：社会性問題への支援 (担当：萩原)

第15回：感覚特性の理解と支援 (担当：萩原)

## テキスト

適宜授業資料を配布する

## 参考書・参考資料等

宮本信也ほか (監修) 特別支援教育の基礎 確かな支援のできる教師・保育士になるために。東京書籍。

## 学生に対する評価

(1)特別支援教育の基本的枠組み、(2)特別支援教育の対象の特性理解、(3)特別支援教育の対象の支援法に関する理解、の3点の観点について、3回の小試験を授業中に実施する (7割)。毎回授業のコメントについて用紙に記載を求め、それも評価の対象とする (3割)。

\*病気や忌引等止むを得ない事情で欠席の場合は、担当教員の判断により課題等で代替する。

\*課外活動による欠席の場合、代替処置は講じない。

授業科目名： 幼児の教育課程と教育 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲井 智義 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</li> <li>2. 教育課程編成の基本原則と幼稚園の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</li> <li>3. 領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</li> <li>4. 幼児期における「資質・能力」を育成する方法について理解し考える。</li> <li>5. 幼児教育の目的に適した指導技術について理解し、身につけ、考える。</li> <li>6. 情報機器を活用した保育について理解し考える。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本授業では、はじめに幼児のカリキュラム（教育課程）と教育方法に関する留意点について概説する。あわせて具体的な実践を取り上げながら、カリキュラム編成と指導計画の立案に向けての視点を養う。おわりに以上の点をふまえたカリキュラム案と指導計画案を作成する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 はじめに：カリキュラム編成の基本と幼稚園教育要領のねらいと内容</p> <p>第2回 幼稚園教育要領の社会史：公共心と探究心・好奇心の脱政治化から再政治化へ</p> <p>第3回 カリキュラムの社会的機能と留意点：再生産理論と隠れたカリキュラム</p> <p>第4回 カリキュラム編成の基本原則としての教育の公共性：ニューパブリックとアナーキズム</p> <p>第5回 領域を横断した教育内容の配置とその構想：カリキュラムの市民化</p> <p>第6回 家庭・地域・小学校・社会・福祉と連携したカリキュラム編成：「みんな」とは誰か</p> <p>第7回 教育方法の実践と理論：「環境を通して行う教育」と見えないペダゴジー</p> <p>第8回 インファンスとしての幼児の主体性と遊び、学び：正統的周辺参加論と学びの社会性</p> <p>第9回 幼児教育を構成する人・空間・環境・教材：メディアとアーキテクチャ</p> <p>第10回 幼児理解に基づいた評価：子ども中心主義とポピュリズムから他者としての子どもへ</p> <p>第11回 ドキュメンテーションと中断のペダゴジー：レッジョ・エミリアと教えの公共性</p> <p>第12回 指導案と実践記録のつくり方と読み方：現代思想以後の教育実践</p>			

第13回 情報機器と教材を用いて幼児の表現を振り返り情報（メディア）リテラシーを育む教育  
 第14回 カリキュラム・マネジメントを超えて：イノベーションとエージェンシー、インファンス  
 第15回 おわりに：幼児教育の公共性を評価するラディカルな見えるペダゴジーと市民性教育  
 期末レポートの執筆

#### テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。  
 文部科学省『幼稚園教育要領』2017年。

#### 参考書・参考資料等

浅木尚実編『絵本から学ぶ子どもの文化』同文書院、2015年。  
 小玉亮子編『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。  
 小玉亮子編『幼小接続期の学校・園・学校』東洋館出版社、2017年。  
 小玉重夫『学力幻想』ちくま新書、2013年。  
 お茶の水女子大学附属幼稚園小学校中学校子ども発達教育研究センター『「接続期」をつくる』東洋館出版社、2008年。  
 木村泰子『「みんなの学校」が教えてくれたこと』小学館、2015年。  
 木村泰子『「みんなの学校」流・自ら学ぶ子の育て方』小学館、2016年。  
 佐伯胖『幼児教育への誘い』増補版、東京大学出版会、2014年。  
 福元真由美編『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。  
 さくら保育園編『それでも、さくらは咲く』かもがわ出版、2014年。  
 ワタリウム美術館製作『子どもたちの100の言葉：レッジョ・エミリア市の挑戦2001』ワタリウム美術館、2013年（DVD資料）。  
 木村涼子・小玉亮子『教育／家族をジェンダーで語れば』白澤社、2005年。  
 東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会編『カリキュラム・イノベーション：新しい学びの創造へ向けて』東京大学出版会、2015年。  
 佐藤慎司・佐伯胖編『かかわることば：参加し対話する教育・研究へのいざない』東京大学出版会、2017年。  
 佐伯胖『「学び」の構造』東洋館出版社、1975年。  
 千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。  
 浜谷直人『困難を抱えた子どもの保育臨床とファンタジー』新読書社、2019年。

#### 学生に対する評価

1. 映像・資料・授業内容に基づく個人レポート：20%
2. 絵本に関するレポート：30%

3. コメントカードの記入を通じた授業への貢献：10%

4. 期末レポート「カリキュラム編成と教育方法の留意点と視点、カリキュラム編成と指導計画」：40%

授業科目名： 教育方法学特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子ども理解」の方法と「教師—子ども」関係の独自性について理解し、自らの考えをまとめることができる。</li> <li>2. 「教えること」と「学ぶこと」の関係性について関心を持ち、「教える」という営みのもつ特質について理解し、自らまとめることができる。</li> <li>3. 授業を捉える基本的な視点について理解し、授業実践記録を分析できる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本授業は、教育方法学研究の主要領域となる授業論および生活指導論における基本的なものの見方や考え方を学習しながら、様々な教育実践の場の今日的課題について考察することをねらいとする。そのためにもまず、子どもを「見る」「理解する」という教師の行為について考察したい。ある子どもの問題現象が、その子どもの人格発達においていかなる課題や発達可能性を表しているのかを的確につかむことが、教師としての働きかけの手だてを構想する前提条件となるからである。それをふまえ、「教える」という営みの特質や授業づくりの理論と方法を捉える各論に移る。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション— 教育方法学の「知」の独自性とこの授業のテーマについて			
各論1 「子ども理解」について考える			
第2回：子どもを「見る」ということ①— 子どもの問題行動のなかに発達要求を読みとる			
第3回：子どもを「見る」ということ②— 外側から評価することと、内側から理解すること			
第4回：子ども理解と教師の「アンラーン」			
各論2 「教える」という営みについて考える			
第5回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史①（「工場モデル」の意義と課題）			
第6回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史②（「農場モデル」の意義と課題）			
第7回：「教える」ことの3つのモデル—「教えること」と「学ぶこと」との関係性をめぐる 問題史③（「劇場モデル」の意義と課題）			

第8回：教師が「問いかける」ということ―「発問」のはたらきと役割を考える

第9回：「教師―子ども」関係と「教育的指導」の特質

各論3 「授業づくり」について考える

第10回：授業づくりと学級づくり― 教室を「まちがう」場所にする

第11回：学力保障と授業づくり―「わかる」授業の成立を求めて

第12回：授業と学習集団―「みんなでわかる」ことの意味を探究する

第13回：授業実践記録の分析①（ワークショップ形式での、グループによる分析）

第14回：授業実践記録の分析②（グループごとの分析結果の発表と、全体討論）

第15回：生活指導・学級づくりの実践記録の分析

テキスト

各テーマにもとづき、その都度資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 吉本均『授業成立入門』明治図書、1985年。
- ・ 吉本均『続授業成立入門』明治図書、1988年。
- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
- ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

資料および教育実践記録の分析・報告とそれらをもとにした討論への参加（40%）、さらにはまとめのレポート（60%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 1. テキストを主題に即して的確に分析し、授業・教育実践を捉えるための「原理的」なものの見方・考え方について理解を深め、自らまとめることができる。 2. 授業と学習集団、教育の方法と技術、生活指導と学級集団づくりの今日的な課題について理解を深め、自らの問題意識をまとめることができる。 3. グループ作業やグループ討論を通して、意欲的に課題追究することができる。			
<b>授業の概要</b> 教育方法学研究は、教育の現実が抱える課題を「説明」する科学ではなく、教育の現実とは無関係に教育理念を「思弁」する科学でもない。それは「原理的」なものとの「実践的」なものとの複眼的な思考の中で、教育の現実が抱える課題をつかみ、その解決の糸口を探り出す「実践科学」であるといえる。演習 I では、実践科学としての教育方法学の特質に迫るために、教授学の知、授業と学習集団、生活指導と学級集団づくりに関する文献を検討することを通して、教育実践を構想するための「原理」を探求することを主たるねらいとする。教育実践を構想するための「原理的」なものの見方は、教育実践の事実がより深く「見える」ようになるための装置となり、かつその「原理」に自覚的であることで教育実践をつくり出す手だてともなる。本演習は、関連する文献の分析を通して、学級づくりや授業づくりを構想していくための「原理」を立ちあげていく場としたい。 また、教育実践が抱える課題に迫る問題設定の方法と、問題解決のための資料収集の視点及び方法を学び、教育方法学における理論的・実践的課題について考察を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーションー教育方法学は理論と実践との関係をどのように捉えてきたか 第2回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く①（子ども理解をめぐって） 第3回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く②（教師と子どもの関係性と教育的指導をめぐって） 第4回：教授学の知を学ぶー『現代教授学の課題と授業研究』を読み解く③（授業の構想と展開をめぐって）			

- 第5回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く①（授業づくりの今日的課題と学習集団研究をめぐって）
- 第6回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く②（学習集団の指導技術をめぐって）
- 第7回：授業と学習集団の理論を学ぶー『学習集団研究の現在』を読み解く③（学習集団研究と子どもの授業参加をめぐって）
- 第8回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く①（生活指導の原理について）
- 第9回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く②（子どもの権利と生活指導について）
- 第10回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く③（子どもの生活世界と子ども理解をめぐって）
- 第11回：生活指導と学級集団づくりの原理を学ぶー『新しい時代の生活指導』を読み解く④（学級集団づくりの思想と方法をめぐって）
- 第12回：グループ別課題研究に向けたテーマ設定
- 第13回：グループ別課題研究の調査発表①（Aグループの発表）
- 第14回：グループ別課題研究の調査発表②（Bグループの発表）
- 第15回：グループ別課題研究の調査発表③（Cグループの発表）
- ※1グループ2～3名で実施する。

#### テキスト

- ・白石陽一、湯浅恭正『現代教授学の課題と授業研究』明治図書、2006年。
- ・深澤広明、吉田成章編『学習集団研究の現在』（vol.1～）溪水社。
- ・山本敏郎『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014年。

#### 参考書・参考資料等

- ・授業の中で随時紹介する。
- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）

・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

テキストの分析報告及びそれらをもとにしたディスカッションへの参加・まとめの作成（70％）、さらには、最終レポート（30％）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. 教師による教育実践のふり返りや授業研究の意義およびその方法について理解している。</p> <p>2. 授業・教育実践を具体的に分析する過程を通して、授業・教育実践の特質やそれらを捉える視点について理解を深め、自らまとめることができる。</p> <p>3. 教育実践、授業実践をめぐる今日的な課題について、自らの問題意識を深めて研究テーマを設定し、研究に有効な先行研究を収集・分析することができる。</p> <p>4. 研究に有効な先行研究の分析を通して、研究課題の設定をおこなうことができる。</p>			
授業の概要			
<p>教育実習での経験を踏まえ、学習指導や生活指導をめぐる教育実践記録の作成とその分析、授業記録の分析をおこなうことを通して、教育実践を省察することの意義およびその方法について理解するとともに、教育実践を分析する視点について理解を深める。さらに、学習指導や生活指導をめぐる今日的な課題について関心を持ち、関連する先行研究を検討することを通して、授業・教育実践が抱える課題に迫る問題設定の方法について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教師が授業・教育実践を省察することの意義			
第2回：教育実践記録作成ワークショップ①（教育実践記録の作成）			
第3回：教育実践記録作成ワークショップ②（教育実践記録の分析）（Aグループの発表・検討）			
第4回：教育実践記録作成ワークショップ③（教育実践記録の分析）（Bグループの発表・検討）			
第5回：授業分析演習①（分析レポートの発表と討論）（Aグループの発表・検討）			
第6回：授業分析演習②（分析レポートの発表と討論）（Bグループの発表・検討）			
第7回：授業分析演習③（分析レポートの発表と討論）（Cグループの発表・検討）			
第8回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討①（第1回 Aグループの発表・検討）			
第9回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討②（第1回 Bグループの発表・検討）			
第10回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討③（第1回 Cグループの発表・検討）			
第11回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討④（第2回 Aグループの発表・検討）			
第12回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討⑤（第2回 Bグループの発表・検討）			
第13回：課題研究のテーマ設定に向けた先行研究の検討⑥（第2回 Cグループの発表・検討）			
第14回：研究課題の設定と研究計画の構想①（A・Bグループの発表・検討）			

第15回：研究課題の設定と研究計画の構想②（B・Cグループの発表・検討）

※1グループ2名で実施する。

定期試験は行わない。

テキスト

課題研究のテーマに即した先行研究を各自で収集する。また、受講者の問題関心に応じて授業の中で随時紹介する。

参考書・参考資料等

- ・ 浅野誠『学校を変える 学級を変える』青木書店、1996年。
- ・ 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。
- ・ 日本教育方法学会編『教育方法』（図書文化）
- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
- ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

実践記録の作成とそれにもとづく討論への参加（20%）、授業分析のレポートと討論への参加（20%）、課題研究の報告およびそれらをもとにした討論への参加（30%）、さらには最終レポート（30%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 教育方法学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒谷 和志 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業・教育実践の研究方法論について理解を深め、自らの研究に活かすことができる。</li> <li>2. 課題解決のために求められる資料・データを収集し、分析することができる。</li> <li>3. 資料・データを分析して得られた知見を総合し、研究課題に対する自らの考えをまとめることができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>教育方法学演習Ⅱで設定した研究課題を解決するための資料・データ収集の視点及び方法を学び、収集した資料・データを実際に分析することを通して、授業・教育実践を分析する理論と方法や授業・教育実践を構想する方法について理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業・教育実践研究の研究方法論の探究①—授業研究の歴史と方法をめぐって</p> <p>第2回：授業・教育実践研究の研究方法論の探究②—授業・教育実践の臨床的な研究方法をめぐって</p> <p>第3回：研究課題を解決するための研究構想の立案①（A・Bグループの発表・検討）</p> <p>第4回：研究課題を解決するための研究構想の立案②（B・Cグループの発表・検討）</p> <p>第5回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析①（第1回 Aグループの発表・検討）</p> <p>第6回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析②（第1回 Bグループの発表・検討）</p> <p>第7回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析③（第1回 Cグループの発表・検討）</p> <p>第8回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析④（第2回 Aグループの発表・検討）</p> <p>第9回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑤（第2回 Bグループの発表・検討）</p> <p>第10回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑥（第2回 Cグループの発表・検討）</p> <p>第11回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑦（第3回 Aグループの発表・検討）</p>			

第12回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑧（第3回 Bグループの発表・検討）

第13回：研究課題を解決するために必要な資料・データの収集とその分析⑨（第3回 Cグループの発表・検討）

第14回：研究成果をまとめるための論文構成の検討①（A・Bグループの発表・検討）

第15回：研究成果をまとめるための論文構成の検討②（B・Cグループの発表・検討）

※1グループ2名で実施する。

定期試験は行わない。

テキスト

研究課題を解決するために必要な資料や授業記録・実践記録を各自で収集する。また、研究課題に応じてフィールドワークをおこないデータを収集する。

参考書・参考資料等

- ・佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。
- ・日本教育方法学会編『日本の授業研究－Lesson Study in Japan－（上・下巻）』学文社、2009年
- ・受講者の問題関心に応じて授業の中で随時紹介する。
- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

収集した資料・データの分析レポート及びそれらをもとにした討論への参加（70%）、さらには研究成果をまとめるレポート（30%）をもとに、到達目標の観点から評価する。

4回以上の欠席は、学業成果を得ることが困難であるため不合格とする。やむを得ない理由により欠席した場合は、速やかに申し出ること。

授業科目名： 心理学研究法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮崎 拓弥 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 記述統計についての基本的事項を説明することができる。</li> <li>2 表計算ソフトを用いてデータを効果的に表現することができる。</li> <li>3 心理・教育に関わる身近な統計的事例について、批判的な検討を加えることができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>心理・教育に関するさまざまな現象について実証的に検討するためには、データを収集し、それに対して統計的処理を施すことが必要となる。本講義では、心理・教育に関わるデータを表現し、要約する記述統計について主に解説するとともに、表計算ソフトを利用した効果的な作図方法等についても説明する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：統計法と測定値の取り扱い 1 統計法の考え方			
第3回：統計法と測定値の取り扱い 1 変数と尺度水準			
第4回：度数分布と統計図表 1 量的変数			
第5回：度数分布と統計図表 2 質的変数			
第6回：中心傾向の測度 1 様々な測度			
第7回：中心傾向の測度 2 その計算			
第8回：得点の散布度 1 その計算			
第9回：得点の散布度 2 その図表化			
第10回：正規分布と相対的位置の測度 1 正規分布			
第11回：正規分布と相対的位置の測度 2 z値への変換			
第12回：正規分布と相対的位置の測度 3 パーセンタイル点・順位			
第13回：直線相関と直線回帰 1 相関係数			
第14回：直線相関と直線回帰 2 線形回帰			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
心理・教育のための統計法 第3版 山内光哉著 サイエンス社			

**参考書・参考資料等**

- ・小学校学習指導要領（最新版）
  - ・中学校学習指導要領（最新版）
  - ・高等学校学習指導要領（最新版）
  - ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・幼稚園教育要領（最新版）
  - ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
  - ・幼稚園教育要領解説（最新版）
  - ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
- 講義内で適宜紹介する。

**学生に対する評価**

毎回の授業時に課される小レポート（20％），試験（80％）

授業科目名： 心理学研究法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮崎 拓弥 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 推測統計についての基本的事項を説明することができる。</li> <li>2 統計処理ソフトを用い、t検定や分散分析を実行することができる。</li> <li>3 t検定や分散分析の結果を適切に解釈することができる。</li> <li>4 周囲の出来事に潜んでいる統計的側面に関心を持ち、批判的な検討を加えることができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>心理・教育に関するさまざまな現象について実証的に検討するためには、データを収集し、それに対して統計的処理を施すことが必要となる。本講義では、それらの研究を行う上で求められる統計学の理論と方法、およびその基礎となる考え方を理解するとともに、コンピュータを用いたデータ処理のスキルの習得を目的とする。本講義では、t検定や分散分析などの推測統計について主に解説するとともに、それらを実行するための統計処理ソフトの操作方法についても説明する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：母集団と標本1 母集団			
第3回：母集団と標本2 標本			
第4回：統計的仮説検定			
第5回：区間推定			
第6回：t検定 その考え方			
第7回：t検定 その計算の仕方と結果の見方			
第8回：1要因分散分析1 その考え方			
第9回：1要因分散分析2 その計算の仕方と結果の見方			
第10回：2要因分散分析1 その考え方			
第11回：2要因分散分析2 その計算の仕方と結果の見方			
第12回：2要因分散分析3 その結果の記述の仕方			
第13回：交互作用1 その考え方			
第14回：交互作用2 その結果の記述の仕方			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

心理・教育のための統計法 第3版 山内光哉著 サイエンス社

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領（最新版）
  - ・ 中学校学習指導要領（最新版）
  - ・ 高等学校学習指導要領（最新版）
  - ・ 小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
  - ・ 幼稚園教育要領（最新版）
  - ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
  - ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
  - ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
- 講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業時に課される小レポート（20%），試験（80%）

授業科目名： 情報教育実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 正範 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場において視聴覚機器やコンピュータ等が導入された経緯やプロセスを理解する。</li> <li>・学校現場においてICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。</li> <li>・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践を学ぶとともに、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。</p>			
授業計画			
<p>第1回： Society5.0 及び AI 時代の社会と教育  第2回： 学校における ICT 活用と政策の変遷  第3回： 学校における ICT 活用の事例検討と共有  第4回： ICT を活用した授業づくり  第5回： ICT を活用した指導計画の立案①（児童生徒の把握と単元指導計画作成等）  第6回： ICT を活用した指導計画の立案②（指導案づくり等）  第7回： 指導計画の発表・模擬授業等  第8回： 情報化社会に生きる子どもと直面する課題  第9回： 情報モラル指導とデジタルシティズンシップの育成  第10回： 情報活用能力を育む指導計画の立案①（児童生徒の把握と単元指導計画作成等）  第11回： 情報活用能力を育む指導計画の立案②（指導案づくり等）  第12回： 指導計画の発表・模擬授業等  第13回： EdTech（VR・ウェアラブルカメラ等）を活用した授業構想①（事例検討）  第14回： EdTech（VR・ウェアラブルカメラ等）を活用した授業構想②（指導案づくり等）  第15回： まとめと振り返り</p>			
テキスト			
授業中に適宜紹介する			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス</li> <li>・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社</li> <li>・小学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・中学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・高等学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）</li> </ul>			

- ・ 中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・ 幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

授業における課題とリフレクションノート、指導計画を点数化して行う。

指導計画・発表（50%）、授業内外の課題（40%）、リフレクションノート（10%）

授業科目名：次世代型 学習デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 正範 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・OECDによるEducation2030プロジェクトを始め、近年の学力論について理解するとともに、次世代の教育について構想することができる。</li> <li>・STEAM教育やプログラミング教育、学習ログの利活用など、次世代の教育で鍵となる教育方法を理解し、説明することができる。</li> <li>・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。</li> </ul>			
授業の概要			
OECDによるEducation2030プロジェクトを始め、近年世界的に進んでいる学力論をふまえ、次世代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT活用や情報活用能力の育成、STEAM教育、プログラミング教育、学習ログの利活用に関する先進実践を学ぶとともに、それらの授業を行う指導計画をデザインする。			
授業計画			
<p>第1回： 学校における学び これまでとこれから</p> <p>第2回： 2030年の学びを構想する</p> <p>第3回： 情報活用能力を育む授業デザイン①（情報学的視点から）</p> <p>第4回： 情報活用能力を育む授業デザイン②（コンピュータサイエンス的視点から）</p> <p>第5回： 情報活用能力を育む授業デザイン③（カリキュラムマネジメント的視点から）</p> <p>第6回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン①（STEAM教育を捉える）</p> <p>第7回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン②（STEAM教育の現在とこれから）</p> <p>第8回： STEAM教育に焦点をあてた授業デザイン③（STEAM教育で授業をつくる）</p> <p>第9回： プログラミング教育実践①（プログラミング教育を捉える）</p> <p>第10回： プログラミング教育実践②（実践例を検討する）</p> <p>第11回： プログラミング教育実践③（プログラミングの活動をつくる）</p> <p>第12回： 授業における学習ログの蓄積と利活用①（学習ログの可能性を捉える）</p> <p>第13回： 授業における学習ログの蓄積と利活用②（学習ログの活用例を検討する）</p> <p>第14回： 授業における学習ログの蓄積と利活用③（学習ログを利用した授業づくり）</p> <p>第15回： まとめと振り返り</p>			
テキスト			
授業中に適宜紹介する			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井俊（2020）OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来，ミネルヴァ書房</li> <li>・堀田龍也・山内祐平（2021）クラウドで育てる次世代型情報活用能力，小学館</li> </ul>			

- ・小学校学習指導要領（最新版）
- ・中学校学習指導要領（最新版）
- ・高等学校学習指導要領（最新版）
- ・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）
- ・幼稚園教育要領（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）
- ・幼稚園教育要領解説（最新版）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）

学生に対する評価

授業における課題とリフレクションノート等を点数化して行う。

指導計画・発表（50%）、授業内外の課題（40%）、リフレクションノート（10%）

授業科目名：幼児理解と教育相談	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲井 智義、川端 美穂 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育現場における幼児理解と教育相談の重要性と課題を理解している。</li> <li>2. 幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。</li> <li>3. 幼児期の子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児理解の方法と実践、幼児にかかわる教育相談・援助のあり方について、講義および事例研究を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期の発達の特徴を踏まえながら、カウンセラーとは異なる教師の行う教育相談の方法の基礎にある理論を学ぶ。</li> <li>2. 幼児期の子どもとその家庭に関する臨床的問題の実際、及び現代の教育現場における諸問題について学ぶ。</li> <li>3. 様々な困難を抱える子ども・多様な保護者とのつながり方の原則と、内外の資源と連携しながら支援するための方法について学ぶ。</li> </ol>			
<p>授業計画</p> <p>第1回～第7回を稲井が、第8回～第15回を川端が担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育における子ども理解1：子ども理解の原則、発達の視点、生態学的視点（担当：稲井）</li> <li>2. 幼児教育における子ども理解2：問題行動・症状の意味（担当：稲井）</li> <li>3. 子ども理解のための教師の「構え」（担当：稲井）</li> <li>4. 子ども理解のための観察・記録・省察・評価（担当：稲井）</li> <li>5. 集団における経験と育ち：子どもを取り巻く人的環境、集団の教育力（担当：稲井）</li> <li>6. 発達における葛藤やつまづき（課題、テーマ、訴え）（担当：稲井）</li> <li>7. 子ども理解のための家庭との情報共有（担当：稲井）</li> <li>8. 幼児教育における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念（担当：川端）</li> <li>9. 特別な配慮を必要とする幼児の理解と援助：発達障害に関する基礎知識（担当：川端）</li> </ol>			

10. 特別な配慮とカウンセリングマインド (担当：川端)
  11. カウンセリングの基礎的態度、技法 (担当：川端)
  12. 園内の連携、保護者への支援、教育相談の進め方 (担当：川端)
  13. 「発達段階」や「発達課題」のとらえ方 (担当：川端)
  14. 個別の指導計画、保育カンファレンスなど園内体制の整備 (担当：川端)
  15. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 (担当：川端)
- まとめ：共感と教育的働きかけの実践的統合 (担当：川端、稲井)

#### テキスト

佐伯胖『幼児教育へのいざない—円熟した保育者になるために—』増補改訂版、東京大学出版会、2014年。

#### 参考書・参考資料等

藪中征代・玉瀬友美編『子どもの理解と援助—子どもの育ちと学びの理解と保育実践—』萌文書林、2020年。

本田和子『異文化としての子ども』ちくま学芸文庫、1992年。

#### 学生に対する評価

1. 教育学的アプローチの各回 (稲井担当) へのコメント提出および課題遂行
  2. 発達心理学的アプローチの各回 (川端担当) へのコメント提出および課題遂行
- 1と2それぞれについての評価を総合する。いずれかがF評価の場合、総合評価はFとする。

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：黒谷 和志			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	15人				
<b>教員の連携・協力体制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画についてはカリキュラム委員会が調整の上策定する。</li> <li>・担当教員を中心に、教科専門科目を担当する他専攻の教員などと共同し企画運営を行う。</li> <li>・受講生のテーマに関わる内容については、研究室指導教員を中心に、担当教員、その他の教員がこれを支援する。</li> <li>・実務的な内容や、教育現場に直結するような内容については、各種機関・学校関係者（附属・スーパーバイザー・実地講師・その他）等の協力のもと、受講生に直接指導を行う。</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師としての職責や教職の特殊性を理解するとともに、自ら向上を重ねることができる</li> <li>2. 他の教職員や保護者、地域の関係者等と連携・協力して教育活動を行うことができる</li> <li>3. 生徒指導に関わる基礎的な知識・技能を身につけるとともに、子ども理解や指導の場で活用することができる</li> <li>4. 学習指導に関わる基礎的な知識・技能を身につけ、実際の場面で用いることができる</li> <li>5. ICT活用指導力に必要な知識技能を身に付ける</li> </ol>					
<b>授業の概要</b> <p>まず、これまでの教職課程の履修や教育実習を電子ポートフォリオを活用して全般的に振り返り、教員として求められる次の5つの観点について、各自の達成度や課題を明確にし、不足している点を明らかにする。ついで、専攻が提供するプログラムに参加し不足していた知識や技能を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科・保育内容等の指導力に関する事柄</li> <li>② 幼児・児童・生徒理解や学級経営に関する事項</li> <li>③ 社会性や対人関係能力に関する事項</li> <li>④ 教職に関する使命感や責任感、教育的愛情に関する事項</li> <li>⑤ ICT活用指導力に関する事項</li> </ol>					
<b>授業計画</b> <p>第1回 ガイダンス—教職実践演習の趣旨の理解（2時間）</p> <p>第2回 学びの履歴の整理とその分析（2時間）</p> <p>第3回 学びの履歴の整理・分析を踏まえた本授業での課題と活動計画の設定（2時間）</p> <p>第4～8回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動の実施とタブレット等のICTを積極的に活用した記録の作成（10時間）</p> <p>第9回 子どもの理解と支援をめぐる今日的課題① —児童虐待、子どもの心のケアをめぐる（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第10回 子どもの理解と支援をめぐる今日的課題② —放課後の世界から見えてくる子どもの生活（実地指導講師との対話）（2時間）</p>					

<p>第11回 「チームとしての学校」について考える          一学校の危機管理対応と養護教諭との連携（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第12回 学校における多職種連携について考える          一地域の中の子どもと放課後児童支援員との連携（実地指導講師との対話）（2時間）</p> <p>第13回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動の記録に基づくタブレット等のICTを積極的に活用したレポート作成（学生指導教員による指導）（2時間）</p> <p>第14～15回 ボランティア活動、フィールド研究、調査研究等、各自の課題を踏まえた活動について、タブレット等のICTを積極的に活用した発表・討論（4時間）</p> <p>※調査研究、レポートの作成や発表の際には、ICT機器等を積極的に活用すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>特に設定しない。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・中学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・高等学校学習指導要領（最新版）</li> <li>・小学校学習指導要領解説総則編（最新版）</li> <li>・中学校学習指導要領解説総則編（最新版）</li> <li>・高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）</li> <li>・幼稚園教育要領（最新版）</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）</li> <li>・幼稚園教育要領解説（最新版）</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）</li> </ul>
<p>学生に対する評価</p> <p>講義中に作成するレポートをもとに、4つの観点に関わる活動計画の達成度を総合的に評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。